

IDEA ジャパン ニュースレター

ハンセン病患者・快復者や、
すべての人々の尊厳の確立
を目指して

2014年 9月25日発行 18号

ご挨拶

理事長 森元 美代治

猛暑日が続く中、連日各地で局地的な集中豪雨による崖崩れや土砂災害に襲われ、多くの被災者が続出しておりますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。お見舞い申し上げます。年ごとに形を変えた天災被害は増大しつつあります。山間地であれ、都会であれ、いつわが身に災難が降り掛かってくるか分かりません。常日頃、気象情報に留意し、防災に務めましょう。

この5月に草津で開催されたハンセン病市民学会で、神美知宏・全療協会長と笹雄二・全原協会長が相次いで逝去されたというニュースに、参加者は言葉を失いました。国賠裁判以降、ハンセン病問題の最終解決を目指し、全身全霊を込めて先頭に立って闘ってきた2人のリーダーの死を無駄にすることなく、遺志を引き継いでいかなければなりません。

さて、前号のニュースレターで私の健康上の理由、会費収入の減少から寄付金に頼らなければ活動が困難になったこと等から、NPOとしてのIDEA ジャパンは、本年5月の総会を経て、7月いっぱいまで閉じたい旨お知らせしたのですが、去る6月7日の総会において、諸事情を考慮した結果、NPO・IDEA ジャパンの活動は2015年3月31日まで延期することになりました。

その主な理由の一つは、かねてから懸案だった、佐久間建理事の研究論文の出版にIDEA ジャパンが協力する事業が現実化しつつあるからです。佐久間理事は、東村山市立青葉小学校や野火止小学校で教員として奉職されていましたが、ハンセン病問題に熱心に取り組み、全生園の入所者や私など退所者を講師としてたびたび招いて、子ども

ちにいじめや差別など人権問題について考える機会を与えてくださり、また全生園周辺の空き缶やゴミ拾い等環境整備、緑化活動にも協力し、全生園祭や多くの行事に子どもたちを参加させ、入所者との交流を積極的に図っていただきました。

このような佐久間理事の教諭としての活動は高く評価され、東京都より特待研修生として上越教育大学大学院に2年間留学されました。その間、沖縄から青森まで全国13の国立ハンセン病療養所を訪問し、教育関連の資料を徹底調査。ハンセン病の歴史の中で、教師がハンセン病を病む子どもたちとどのように向き合い、何をし、何をこなしたかを検証し、まとめた論文です。これまで例を見ない分野の著作と言えるでしょう。



栗生楽泉園にオープンした重監房資料館
笹雄二さんの悲願が実った

教育問題がいろいろ論じられている昨今、教育関係者だけでなく、広く一般市民にもぜひ読んでいただきたいと考え、IDEA ジャパンは出版に協力することにいたしました。

編集・校正を重ねた結果、素晴らしい原稿が出来上がり、幸いなことに出版社も決まり、本年度中には発行される運びとなりました。その出版費用

が確定し、会計処理が終了するまでIDEA ジャパンの活動を続ける必要があります。

次に、皆様のご協力でIDEA ジャパンがこれまで活動を続けてこられたことに感謝し、記録集『NPO・IDEA ジャパンの歩み（仮題）』を発行する予定です。この記録集の発行、配布、会計処理を3月31日までに終了する予定です。

主にこの二つの事業を完了し、残務処理を終えた後、NPOのIDEA ジャパンは解散し、改めてNGOのIDEA ジャパンとして再出発しようと考えています。このような諸事情をご了解いただき、さらなるご協力・ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



神美知宏・全療協会長が急逝されたニュースは世界中のハンセン病回復者に大きな衝撃を与え、悲しみに包まれました。そこで、これまで IDEA に寄せられた寄付の中から、神さんの功績を偲ぶために提供された資金で、IDEA ガーナの帰郷プロジェクトを援助することが出来ました。

翻訳：星野奈央さん（笹川記念保健協力財団）

IDEA ガーナ会長 コフィ・ニヤルコ（左）

“神（こう）さんの魂はガーナの私たちと共にあります。
マニラの会議でお会いした神さんのことは、決して忘れません。
心よりご冥福をお祈りいたします”

IDEA ガーナは、これまで、差別と偏見のために故郷を離れ、定着村で、長くは数十年にわたり暮らしていた人たちを、再び故郷に戻す活動をしてきました。その数は 350 人にのぼります。IDEA ガーナのメンバーは、定着村で暮らしてきた人たちの故郷を訪問して、家族と村長に面会して、彼らが故郷に戻れるように、時間をかけて説明してきました。しかしまだ 102 人の人がいつか故郷に戻る日を夢見ています。IDEA ガーナが神（こう）さんを偲ぶために受けたご寄付は、今回 4 人が故郷に帰るために使われました。

ナモンガ アフラフラ

今日こうやって私が故郷に戻ることができたのは、私たちの兄弟の神（こう）さんのおかげね。神さんに実際にお目にかかることはできなかったけれども、あなたが話をしてくれた神さんのことは、生涯忘れません。家族との絆を取り戻そうと努力をし、お兄さんと一緒に講演することもあったという神さんのことを、心から誇りに思います。神さんがこれまで回復者のためにやっていらっしかったことは、これから私たちが受け継がなくてはなりません。

私が定着村に来たのは、私が 19 歳の時でした。今はもう 61 歳です。もしも今日死んだとしても、定着村ではなく故郷で死ねたことを心から喜べます。故郷に戻ることができて本当に幸せです。ここで、家族をはじめ、故郷の人が、本心から私が戻ってきたことを喜んでくれているのを見て、この上ない幸せです。





クワベナ ダガルティ

覚えておいてほしい。IDEAの心と、わが兄弟、神(こう)さんはいつも私と共にあることを。これがあったから、一昼夜かけての長旅を続けて、今日こうやって故郷に戻ることができたのだから。こうやって私が我が兄弟である神さんを偲ぶご寄付のおかげで故郷に戻ることができたように、すべての国の人々が、愛する家族のいる故郷に戻ることができることを、心から祈ります。ご寄付をくださった方に、幸せあれ。



アク シカ

故郷に戻る長い道のり、私がずっと考えていたのは、私はいま神(こう)さん、IDEA、コフィと一緒に旅しているのだということでした。神さんの奥様が感じている哀しみは、よく分かります。ただ覚えていてください。IDEAの私たち全員の心は、いまあなたと共にあります。そして神さんは、4人が故郷へ戻る長い道のり、ずっと私たちと一緒に旅してくださいました。



エマニュエル オセイ

コフィ、君が話してくれた神(こう)さんは、ハンセン病にかかった人たちのために闘い続けた人だ。まるで君自身のようにね。そんな素晴らしい人が亡くなったということは、言葉にすることができない損失だ。ご冥福を心から祈りたい。神さんの奥様に伝えてほしいんだ。神さんが亡くなったことによって、故郷に帰れた4人がいることを。私たちにとって神さんは、ちょうどイエス キリストが我々すべてのために死に向かい、死して父なる神のもとに戻っていったように、私たち4人のために亡くなった。神さんは私たちを定着村から解放し、そのあとに父なる神のもとに戻っていったのだ。

偉大なリーダー 神美知宏さんと研雄二さんを偲んで

IDEA 国際コーディネーター アンウェイ・ロー

非常な悲しみの思いで、このニュースを聞きました。神さんはいつまでもお元気だと思っていたのです。あまりにも大きな喪失です。神さんの叡智だけではなく、あの素晴らしいほほえみを見ることができなくなると思うと、心が痛みます。

昨年来日した際に、神さんにお目にかかることができたのが、唯一の心の慰めです。

研さんが担架に乗って重監房資料館のオープニング式典に参加されたという記事は忘れることができません。また、勝訴判決の日に研さんが叫んだ「人間の空を取り返した」という言葉は、私たちのニュースレターでも使わせていただいています。

偉大なお2人の闘う心から学ぶものは非常に大きいと思います。

お2人を偲ぶ会には、私たちも心だけ参加させていただきます。

日本の闘士の皆さんが残した功績はあまりにも大きく、それが日本だけではなく、世界の人々にどれほど大きな影響を与えているかを皆さんにぜひとも知っていただきたいと思います。



神美知宏・全療協会長と研雄二・全原協会長を偲ぶ会が、6月21日（土）、東京のT O C有明4階E A S Tホールで開催され、全国から大勢の人びとが参列しました。冒頭、山陽放送の宮崎賢さんが撮影・編集したビデオが放映され、2人の在りし日の姿に多くの人びとが涙ぐんでいました。

研さんの最後の作品『死ぬふりだけでやめとけや』の紹介と研さんがカラオケで歌う大らかな歌声が紹介されました。

神さんがハンセン病市民学会で発表する予定だった「全療協・緊急アピール」を藤崎陸安全療協事務局長が読み上げ、参加者はあらためて2人の遺志を受け継いで、これからも闘いを続けようという思いを新たにしました。

弐雄二さん（ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会会長）逝く

重監房を次代に遺す悲願を達成

写真 八重樫信之

文 村上絢子

第10回ハンセン病市民学会開催中の5月11日、栗生楽泉園（草津）で闘病中の弐（こだま）雄二・ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会会長が逝去した。

弐さんは、1932年、東京で生まれた。同病の母と兄と一緒に7歳で多磨全生園（東京都東村山市）に強制隔離。幸い特効薬プロミンで快復したが、後遺症で「鬼」のような顔になってしまった。19歳で楽泉園へ転園。自分の家族に降りかかった災難の元凶は「らい予防法」だから、「鬼」となって国のやり方に反抗すると決め、人権闘争と詩作に没頭した。

転園して間もなく、弐さんは山中に造られた「特別病室」を見に行った。1938年、内務・司法当局が不穩患者を収監するために、「世界に誇る文化施設」として建てたのだが、実際は重監房そのものだった。

高さ4・5mの壁に囲まれた監房には、明かり取り窓と食事の差し入れ口しかない。冬にはマイナス十数度にもなるのに暖房もなく、支給されたのは掛敷布団各一枚。1日2回の食事は、麦飯にタクワンか梅干し、身のないみそ汁か水一杯だけ。1938年から1947年までに93人が収監され、23人が凍死、衰弱死している。

1947年、国会で問題視され、国会派遣調査団が調査した後、1953年、入所者が知らない間に園が取り壊した。誰も責任を問われなかったし、重監房に関する公式記録は見つかっていない。これほどまでの人権侵害を国は「無かったこと」にしたと、弐さんは憤った。

現在、療養所の入所者数1840人、平均年齢83.4歳。入所者減に伴い「自然消滅」を待つ厚労省に対して、人権侵害の歴史が「無かったこと」にされるのを危惧した弐さんは、重監房復元を要求。ハンセン病の負の歴史を次代に伝えるために重監房資料館を建てて「人権のふるさと」にする、その仕事を終えるまでは死ねない、と言い続けた。4月30日の重監房資料館の開館式にストレッチャーで出席した後、重態に陥った。

市民学会の開会式に吹き荒れて参加者を震え上がらせた白根嵐（しらねおろし）は、弐さんの魂の叫びであり、「人間」を奪ったものに対する怒りそのものに思えてならない。その夜、白根山に雪が降った。

11日未明、弐さん逝去。くしくも国賠訴訟の勝訴判決を勝ち取った日だった。弐さんが長い旅を終えて旅立ったその日は、前日とは打って変わって、穏やかな春の陽射しに包まれていた。全人生を闘い抜いた弐さんの顔には笑みが浮かんでいた。享年82。

『週刊金曜日』7月11日号（発行：株式会社金曜日）から転載



写真左は2012年11月の「いま、ハンセン病療養所の命と向き合う！」東京集会で挨拶する弐雄二さん。写真右は再現された重監房の壁。高さ4.5メートル

1. 事業の成果 (1) ハンセン病に対する差別・偏見除去のための啓発事業、(2) 国内外のハンセン病患者・快復者との交流及び支援事業、(3) ハンセン病関係の資料の収集・情報提供事業、の三事業を事業計画として掲げ、取り組んだ。

(1) の啓発事業については、①講演、②写真展の開催、③園内案内と国立ハンセン病資料館における説明、の3つが主なものであった。①講演等については、森元美代治理事長が28回、「春うらら・講演&コンサート」、シンポジウム「隔離から共生へ ハンセン病療養所の「内」と「外」から社会を変える」、「徳田靖之弁護士講演会『国賠裁判から療養所のいま』」を共催した。②写真展については、八重樫信之理事が撮影した『輝いて生きる』の写真展を横浜の人権メッセージ展で開催した。③フィールドワーク（全生園と国立ハンセン病資料館案内）は、IDEA ジャパンに説明依頼があった団体に対して、森元理事長が24回案内し、説明した。上記①～③の受益対象者は合計4,105人を越え、啓発の面に関して多大な成果を上げた。

(2) 国内外のハンセン病患者・快復者との交流及び支援事業については、①生活改善のための支援、②奨学金支給、③交流、の3つが主なものであった。①については、HANDA (IDEA 中国)、IDEA インド、IDEA フィリピン（クリオン島）、インドネシアへ生活改善資金を提供した。②については、HANDA (IDEA 中国)、IDEA インド、IDEA フィリピン（クリオン島）、インドネシアの学生に奨学金を支給した。③については、2013年9月にブリュッセル（ベルギー）で開催された国際ハンセン病学会& IDEA 国際集會に森元理事長夫妻と蘭由岐子会員が参加し、ハンセン病施設の世界遺産登録について討論し、交流を深めた。また熊本市（菊池恵楓園）で開催された第9回ハンセン病市民学会に理事、会員多数が参加した。

(3) ハンセン病関係の資料の収集・情報提供事業については、①IDEA ジャパンのニュースレター16号、17号の発行、ホームページによる情報発信、②資料提供、③資料収集、④その他の活動がある。①ニュースレター16号は、4月に多磨全生園で開催した「春うらら・講演&コンサート」について紹介した。第1部は、IDEA 国際コーディネーターのアンウェイ・ローさん（歴史家）に「ハンセン病のいま～歴史保存と人権の確立をめざして」というテーマで講演をいただいた。カラウパ療養所をはじめ、各国のハンセン病施設と回復者の現状、周辺地域住民との関わり方について、豊富な写真を使った報告は、“見てわかる講演”だったと好評だった。第2部はシンガーソングライターの沢知恵さんのコンサートだ。沢さんは幼少時代から両親に連れられて大島青松園を訪問。芸大卒業後も療養所でのコンサートを続け、塔和子さんの詩にメロディーを付けた弾き語り、観客の感動を呼んだ。『「根性と努力に惚れた」と夫に言われたの』は、山内きみ江さん（理事）の聞き書きである。両親への思い、向学心に燃えた療養所での生活、夫への愛情、社会復帰の経験等、反響が大きかった。

ニュースレター17号は、2013年9月にベルギーで開催された第18回国際ハンセン病学会について、森元理事長の報告を掲載した。ベルギーへ行く前に訪問したノルウェーでは、シグュー・サンドモさん（元ハンセン病博物館館長）一家に歓待されたこと、アウシュビッツでは、第2次大戦中にナチスの蛮行が行なわれた現場に立った経験を、まるで地獄絵を見るようだったと述べている。ダミアン神父の故郷ベルギーで国際ハンセン病学会が開催されたので、神父の足跡を訪ねられたことは、カトリック信者である森元理事長の大きな喜びであった。IDEA 総会では、世界のハンセン病施設の世界遺産登録問題について熱心な意見交換が行なわれた。

IDEA 総会については、通訳兼コーディネーターを引き受けてくださった栗田路子さん（ブリュッセル在住）が寄稿してくれた。また「ハンセン病に立ち向かった2人」ダミアン神父と後藤昌直医師の交流について湯地晃一郎さんが寄稿してくださった。

徳田靖之弁護士の講演会（ハンセン病首都圏市民の会と共催）は、福祉会館が満員になるほどの盛会だった。徳田弁護士は、ハンセン病問題にかかわるきっかけから、国賠訴訟の意義、勝訴、控訴断念、療養所の将来構想、現状について解説してくださったが、内容は分かりやすく、弁護士の人柄がにじみ出る講演だったので、会場は感動に包まれた。

IDEA ジャパン会計報告 (2013 年度)

平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで

<収入>

入会金		1 人	1,000
年会費	正会員	30 人	150,000
	賛助会員	38 人	76,000
	特別正会員	0 人	0
	特別賛助会員	2 人	40,000
寄付金			1,057,700
利息			73
返金			10,000
合計			1,334,773

<支出>

1 事業費

(1) 啓発事業	247,316
(2) 支援事業	908,496
(3) 情報提供事業	217,160

合計 1,372,972

2 管理費

給料手当	250,000
消耗品費	58,702
会議費	42,350
通信運搬費	76,405
印刷製品費	32,833
雑費	7,875
誤認振込払い戻し	137,790

合計 605,955

3 予備費 13,650

支出合計 $1,372,972 + 619,605 = 1,992,577$

<残高> $1,334,773 - 1,992,577 = \triangle 657,804$

<累計残高> $\triangle 657,804 + 1,672,816 = 1,015,012$

トピックス



自立ステーション「つばさ」の講演会

7月21日 多摩市永山公民館で、自立ステーションつばさ主催で関戸公民館市民企画講座が開催されました。「ハンセン病当事者から見た終わらない差別との闘い」というテーマで、徳田靖之弁護士（ハンセン病療養所の将来構想をすすめる会）と森元美代治さん（IDEA ジャパン理事長）が講師を務めました。

高幡不動尊様から寄付

毎年、高幡不動尊様から多額の寄付をいただいています。また同志社女子中・高校からも年に何度もバザーの収益金を、その他、多数の方々からも寄付を頂戴しています。これらの寄付金は、海外の回復者たちの生活向上や奨学金に使わせていただいています。



高幡不動尊の川澄祐勝貫主（右）から寄付金を受ける森元理事長

ハンセン病市民学会・東京集会のお知らせ

来年の5月9日（土）・10日（日）に東京でハンセン病市民学会が開催されることになりました。

皆様の積極的なご参加、ご意見等を歓迎します。詳しくは、ハンセン病首都圏市民の会のホームページをご覧ください。

<http://www009.upp.so-net.ne.jp/shutoken/index.html>

IDEA ジャパン会費振込先：ゆうちょ銀行

口座番号 00100-8-723261

加入者名 特定非営利活動法人 IDEA ジャパン

発行責任者：森元 美代治

特定非営利活動法人 IDEA ジャパン

<http://www.idea-jp.org/>

事務局：

〒204-0012 東京都清瀬市中清戸 4-847

中清戸4丁目アパート 7-605

Tel&Fax 0424-93-6105

編集後記：村上 絢子

神美知宏さんはIDEA ジャパン設立当初から会員になって活動を支援してくださいました。去年、ヘンリー&アンウェイ・ロー夫妻と一緒にハンセン病問題を話し合ったのが最後になってしまいました。啓雄二さんが精魂傾けた重監房資料館を見学して、啓さんとIDEAの活動理念は同じ方向を向いていたことを実感。もっと早く啓さんとIDEAをつなげたかった！

E-mail info@idea-jp.org

FAX 04-2925-8165